形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Does biopsy type influence survival in clinical stage I cutaneous melanoma?	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ7-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	4078105	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	13	
	号	6	
	ページ	983-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1985 Dec	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lederman JS	ハーバード MGH 皮膚科
	その他著者 1	Sober AJ	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	生検手技の違いが予後に影響するか検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	ハーバード MGH 皮膚科	
	対象者	1972年9月から1977年5月までにハーバード MGH 皮膚科で診察をした、転移の無い黒色腫患者４７２例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	Incisional biopsy、excisional biopsy	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5年生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	472例中119例はincisional, 353例ではexcisional biopsyであった。Tumor thickness 1.7mm未満では incisional biopsy と excisional biopsy の間に 5 年生存率の差はない。1.7mm以上では incisional biopsy のほうが予後が悪くなるという結果が出たが、多変量解析を行うと有意差は見出されなかった。	
	結論	初回の生検では incisional biopsy、excisional biopsy のどちらを行ってもよい。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	吉賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 有意差はないものの、生存曲線は交差せず incisional biopsy が下に位置している。「有意差なし」という結果は「同じである」ことを証明していない。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Effect of initial biopsy procedure on prognosis in Stage 1 invasive cutaneous malignant melanoma: review of 1086 patients	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ.7-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	1933198	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	78	
	号	9	
	ページ	1108-10	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1991 Sep	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lees VC	Department of Plastic Surgery, Addenbrooke's Hospital, Cambridge, UK.
	その他著者 1	Briggs JC	Department of Histopathology, Frenchay Hospital, Bristol, UK
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

	目的	初回生検の方法の違いが予後に影響するか検討する	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	Frenchay Hospital 形成外科	
	対象者	1967 から 1984 年の転移の無い invasive melanoma 患者 1086 人（初回手術から 5 年間フォローできた者）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	Incisional biopsy、narrow margin excision biopsy（最小マージンが 0.9cm 未満）、primary wide excision biopsy（最小マージンが 1cm 以上）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所再発	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	死亡	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	96 例（8.8%）は incisional biopsy、292 例（26.9%）は narrow margin excision biopsy、698 例（64.3%）は primary wide excision であった。生検方法の選択に最大 tumor thickness、年齢、性別が関連していた。Incisional biopsy の 40%（96 例中 38 例）で完全な診断にいたらず他の生検方法と有意な差が認められた（$p<0.0001$）。 ロジスティック回帰分析の結果、incisional biopsy は局所再発と死亡率に影響を与えなかった。予後は tumor thickness, 年齢、性に相関した。	
	結論	予後には影響ないが、病理組織評価ができるように excisional biopsy を選択するよう薦める。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Incisional biopsy and melanoma prognosis.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ7-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	12004308	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol.	
	雑誌 ID		
	巻	46	
	号	5	
	ページ	690-4	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2002 May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bong JL	Western Infirmary 皮膚科, Glasgow, UK.
	その他著者 1	Herd RM	同上
	その他著者 2	Hunter JA	The Royal Infirmary of Edinburgh 皮膚科
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	黒色腫患者において、Incisional biopsy が予後に及ぼす影響を検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	Scotland(Glasgow と Edinburg)	
	対象者	The Scottish Melanoma Group に 1979 年から 1995 年まで登録された 5727 症例のうち、incisional biopsy を行った 265 例とそれらに性別、部位、年齢、tumor thickness をマッチさせた excisional biopsy496 例。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	incisional biopsy、excisional biopsy	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	再発までの期間	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	黒色腫関連死亡までの期間	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	生検のタイプによる再発（p=0.3），黒色腫関連死亡までの期間（p=0.34）への影響は認められなかった。	
	結論	黒色腫患者において、全摘前の incisional biopsy は予後に影響を及ぼさない。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Is incisional biopsy of melanoma harmful?	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ7-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	16307945	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	190	
	号	6	
	ページ	913-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2005 Dec	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Martin RCG 2nd	University of Louisville
	その他著者 1	Scoggins CR	University of Louisville
	その他著者 2	Ross MI	University of Texas
	その他著者 3	Reintgen DS	Lakeland Regional cancer centre
	その他著者 4	Noyes RD	LDS Hospital
	その他著者 5	Edwards MJ	University of Arkansas
	その他著者 6	McMasters KM	University of Louisville
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の８項目	目的	切除生検、部分生検、shave biopsy それぞれ施行後の、センチネルリンパ節転移、局所再発、無病生存率、無遠隔転移生存率、全生存率を検討する	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	アメリカ、カナダ	
	対象者	Sunbelt Melanoma Trialにエントリーしたもののうち生検手技の種類が判明している 1782 症例。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	Excisional biopsy、incisional biopsy、shave biopsy	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
	1	SNL metastasis	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	locoregional recurrence	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3	disease-free survival	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	4	distant disease-free survival	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	5	overall survival	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	3 群間にセンチネルリンパ節転移陽性率の差はなかったが、潰瘍（p=0.018、カイ２乗）とリグレッション（p=0.022、カイ２乗）の有無について有意差が認められたが、年齢、性別、tumor thickness、Clark level、脈管浸潤、原発部位、組織学的 subtype に関して有意差は認められなかった。 生検手技の違いは、センチネルリンパ節転移、局所・所属リンパ節転移、無病生存率、無遠隔転移生存率、総生存率に影響を与えなかった。	
	結論	不完全切除によってセンチネルリンパ節転移陽性率が上昇するかもしれないと考えられたが、そのようなことはなかった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Influence of biopsy on the prognosis of cutaneous melanoma of the head and neck.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ7-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	8647675	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Head Neck	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号	2	
	ページ	107-17	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1996 Mar-Apr	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Austin JR	テキサス大学 M.D.アンダーソン癌センター Department of Head and Neck Surgery
	その他著者 1	Byers RM	同上
	その他著者 2	Brown WD	同上
	その他著者 3	Wolf P	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の８項目	目的	頭頸部悪性黒色腫における生検手技の違いが予後に影響を及ぼすか検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	M.D.アンダーソン癌センター	
	対象者	1983 年から 1991 年まで M.D.アンダーソン癌センターで治療を受けた頭頸部悪性黒色腫患者 159 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	excisional biopsy、incisional biopsy、other biopsy	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
	1	原発部位での再発	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	所属リンパ節再発	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3	遠隔転移	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	生検手技の違いによる、原発部位での再発率と所属リンパ節再発率への影響は認められなかったが、遠隔転移に関して excisional biopsy で 10.1%、incisional biopsy で 31.3%と有意差を認めた（p =0.007）。 また、黒色腫による死亡は excisional biopsy で 8.9%、incisional biopsy で 31.3%と有意差を認めた（p =0.023）。 多変量解析では腫瘍の残存、頸部病変、生検の方法が生存率に影響する独立因子とされた。	
	結論	頭頸部において、病変の大きさによって incisional biopsy をせざるをえない場合は、迅速に追加切除できる状況を用意しておく必要がある。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	The time from diagnostic excision biopsy to wide local excision for primary cutaneous malignant melanoma may not affect patient survival.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	MMCQ7-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	12100184	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	147	
	号	1	
	ページ	48-54	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.薬学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2002 Jul	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	McKenna DB	Department of Dermatology, Royal Infirmary of Edinburgh, Scotland, UK.
	その他著者 1	Doherty VR	同上
	その他著者 2	Lee RJ	Medical Statistics Unit, University of Edinburgh, Scotland, UK.
	その他著者 3	Prescott RJ	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	生存率や再発率が、診断のための生検と拡大切除までの時間に影響をうけるか検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Scottish Melanoma Group database	
	対象者	1979 から 1997 までに全摘生検と拡大切除を受けた 986 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	生検から切除までが 14 日未満、15 から 28 日、29 日から 42 日、43 日から 91 日、92 日以上	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	全生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	無病生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3	無再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	切除生検時の平均年齢は 47.4 歳でフォローアップ期間の中央値は 5 年であった。生検から切除までの期間の中央値は 30 日であり、期間が長いほど高齢で、厚さが薄く、頭頸部病変の割合が増え、表在拡大型の割合が減り、潰瘍を有していなかった。 単変量解析では生検から切除までの各期間群間で、全生存率（$p=0.60$）と無病生存率（$p=0.24$）の有意差は認められなかった。 無再発率に関して設定した群の間で有意差が見られた（29 日から 42 日、43 日から 91 日で良好であった　$p=0.011$）が、年齢・性別・tumor thickness などを調整すると、全生存率、無病生存率、無再発率に統計学的に有意な差は見られなかった（$p=0.88$、$p=0.44$、$p=0.084$）。	
	結論	生存率や再発率が、診断のための生検と拡大切除までの時間に影響をうけるという証拠は得られなかった。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	A retrospective observational study of primary cutaneous malignant melanoma patients treated with excision only compared with excision biopsy followed by wider local excision.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	MMCQ7-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	15030337	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol.	
	雑誌 ID		
	巻	150	
	号	3	
	ページ	523-30	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2004 Mar	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	McKenna DB	Department of Dermatology, Royal Infirmary of Edinburgh
	その他著者 1	Doherty VR	同上
	その他著者 2	Lee RJ	Medical Statistics Unit, University of of Edinburgh
	その他著者 3	Prescott RJ	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	切除生検をしてから拡大切除をした場合と、一期的に切除をする場合で予後に差があるか検討する。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Scottish Melanoma Group database	
	対象者	1979 から 1997 までの患者 1595 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	切除生検をしてから拡大切除、一期的に切除	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	全生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	無病生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3	無再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	一期的に切除したグループ（n=547）は切除生検をしてから拡大切除を行ったグループ（n=1048）に比べて有意に高齢で、腫瘍が厚く、悪性黒子型の割合が高く、頭頸部の割合が高く、潰瘍を伴う率が高かった。切除マージンは有意に一期的に切除したグループの方が狭かった。 全生存率、無病生存率、無再発率は切除生検をしてから拡大切除を行ったほうが有意に優れていた（$p<0.00001$、$p<0.00001$、$p=0.0001$）。年齢、性別、tumor thickness、原発部位、組織、潰瘍の予後因子について補正を行った後でも、切除生検をしてから拡大切除を行ったほうが全生存率（ハザード比(HR)0.75, 95%信頼区間（CI）0.61-0.62, $p=0.006$）、無病生存率（HR 0.75, CI 0.62 -0.90, $p=0.002$）、無再発率（HR 0.78, CI 0.62 -0.99, $p=0.04$）が有意に優れていた。	
	結論	一期的に切除をおこなうと切除マージンが不十分となる。理由は明確ではないが生存率は切除生検をしてから拡大切除を行ったほうが優れている。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Final version of the American Joint Committee on Cancer staging system for cutaneous melanoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ8-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ、システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ、1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ、非ランダム化比較試験による Ⅳ、分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ、記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ、患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	11504745	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Clin Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	19	
	号	16	
	ページ	3635-48	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2001 Aug 15	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Balch CM	Johns Hopkins Medical Institutions
	その他著者 1	Buzaid AC	American Society of Clinical Oncology
	その他著者 2	Soong SJ	Hospital Sirio Libanes
	その他著者 3	Atkins MB	University of Alabama at Birmingham
	その他著者 4	Cascinelli N	Beth Israel Deaconess Medical Center
	その他著者 5	Coit DG	Istituto Nazionale Tumori
	その他著者 6	Fleming ID	Memorial Sloan-Kettering Cancer Center
	その他著者 7	Gershenwald JE	Methodist Hospital Cancer Center
	その他著者 8	Houghton A Jr	University of Texas, M.D. Anderson Cancer Center
	その他著者 9	Kirkwood JM	University of Pittsburgh Medical Center
	その他著者 10	McMasters KM	John Wayne Cancer Institute

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	悪性黒色腫のステージングシステムを改訂する
	データソース	AJCC メラノーマデータベースの 17600 人
	研究の選択	Tumor Thickness、リンパ節転移、遠隔転移について検討
	データ抽出	
	主な結果	Level of invasion は T1 にのみ適用する T,N,分類に潰瘍の有無を入れる 衛星病変は N 分類に入れる 4.0mmより厚い腫瘍はⅡｃ リンパ節転移の大きさは不要 リンパ節転移の数は必要 リンパ節転移は顕微鏡的か肉眼的か記載する 肺転移は M1b に独立 センチネルリンパ節生検の結果を反映させる
	結論	2002 年の AJCC Cancer Staging Manual 発行を持って公式な改訂とする
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅰ ） 具体的な研究方法は同じ号のほかの論文に記載されている。Q9-(4)厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討されておりそれに準ずるものと評価した。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Model predicting survival in stage I melanoma based on tumor progression.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ8-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ、システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ、1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ、非ランダム化比較試験 Ⅳ、分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ、記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ、患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	2593166	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Natl Cancer Inst.	
	雑誌 ID		
	巻	81	
	号	24	
	ページ	1893-904.	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1989 Dec	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Clark WH Jr	Department of Dermatology, University of Pennsylvania School of Medicine
	その他著者 1	Elder DE	同上
	その他著者 2	Trock BJ	同上
	その他著者 3	Synnestvedt M	同上
	その他著者 4	Halpern AC	同上
	その他著者 5	Guerry D 4th	Department of Medicine
	その他著者 6	Schultz D	The Cancer Centre
	その他著者 7	Braitman LE	同上
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	転移の無い患者の予後予測モデルを作成する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	University of Pennsylvania	
	対象者	1972 年 9 月から 1978 年 12 月までにペンシルバニア大学を受診した黒色腫患者 501 人のうち基準を満たした 386 人。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	Radial growth phas、Vertical growth phase（23 の項目）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	死亡	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	フォロー期間は最短で 100.6 ヶ月、中央値は 150.2 ヶ月。Radial growth phase 患者の 8 年生存率は 100%であった。 Vertical growth phase 患者 264 人の 8 年生存率は 71.2%であった。 Vertical growth phase の患者の予後を予測するのに多変量ロジスティック回帰モデルを使用した。23 項目のうち 6 項目が独立予後因子となった：一平方 mm あたりの細胞分裂数、腫瘍に浸潤するリンパ球、Tumor Thickness、原発の解剖学的部位、性別、組織学的消退。	
	結論	このシステムは現時点で最も正確な生存予想モデルである。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Primary cutaneous melanoma. Optimized cutoff points of tumor thickness and importance of Clark's level for prognostic classification.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ8-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ IV ）	
	Pubmed ID	7736394	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	75	
	号	10	
	ページ	2499-2506	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1995 May 15	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Buttner P	Institute of Medical Statistics and Informatics, Steglitz Medical Center
	その他著者 1	Garbe C	University Department of Dermatology, Steglitz Medical Center
	その他著者 2	Bertz J	Institute of Social Medicine and Epidemiology of the Federal Health Office Berlin
	その他著者 3	Burg G	Department of Dermatology Wiirzburg
	その他著者 4	d'Hoedt B	Department of Dermatology Tubingen
	その他著者 5	Drepper H	Fachklinik Hornheide
	その他著者 6	Guggenmoos-Holzmann I	Institute of Medical Statistics and Informatics, Steglitz Medical Center
	その他著者 7	Lechner W	Department of Dermatology Wiirzburg
	その他著者 8	Lippold A	Fachklinik Hornheide
	その他著者 9	Orfanos CE	University Department of Dermatology, Steglitz Medical Center
	その他著者 10	Peters A	Fachklinik Hornheid
一次研究の 8 項目	目的	Tumor thickness のカットオフポイントを決定する。Tumor thickness と level of invasion の組みあわせが予後予測に寄与するか検討する。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	4ヶ所の大学皮膚科	
	対象者	1970 年から 1988 年までの黒色腫患者 5093 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	tumor thickness、level of invasion	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	死亡	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	死亡の相対リスクは tumor thickness 6mmまで直線状に変化し、それ以上では変化がなかった。 Tumor thickness の cut off ポイントは 1、2、4mm が望ましい。 Level of invasion が予後にかかわるのは tumor thickness が 1mm 以下の場合であった。	

	結論	Tumor thickness の cut off ポイントは 1、2、4mm が望ましい。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic factors analysis of 17,600 melanoma patients: validation of the American Joint Committee on Cancer melanoma staging system.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ8-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ IV ）	
	Pubmed ID	11504744	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Clin Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	19	
	号	16	
	ページ	3622-34	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2001 Aug 15	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Balch CM	Johns Hopkins Medical Institutions
	その他著者 1	Soong SJ	American Society of Clinical Oncology
	その他著者 2	Gershenwald JE	University of Alabama at Birmingham
	その他著者 3	Thompson JF	Sydney Melanoma Unit
	その他著者 4	Reintgen DS	H. Lee Moffit Cancer Center
	その他著者 5	Cascinelli N	Istituto Nazionale Tumori
	その他著者 6	Urist M	University of Louisville Medical Center
	その他著者 7	McMasters KM	University of Pittsburgh Medical Center
	その他著者 8	Ross MI	Beth Israel Deaconess Medical Center
	その他著者 9	Kirkwood JM	University of Washington Medical Center
	その他著者 10	Atkins MB	Memorial Sloan-Kettering Cancer Center

一次研究の 8 項目	目的	AJCC ステージングシステムの改訂をおこなう	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	AJCC メラノーマデータベース	
	対象者	13 のデータベースから集めた 17600 症例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	年齢、性別、部位、Tumor Thickness、level of invasion、潰瘍	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	死亡	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	T では tumor thickness と潰瘍が最も強力な生存予測因子で、level of invasion は tumor thickness が 1mm 以下の場合影響がある。 N ではリンパ節転移の数、リンパ節転移は臨床的に明らかかそうでないか、原発部位の潰瘍の有無の 3 つが独立因子であった。 M では内臓転移の有無が重要であった。	
	結論	この結論は新しい AJCC staging に反映される。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ）	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Tumor mitotic rate is a more powerful prognostic indicator than ulceration in patients with primary cutaneous melanoma: an analysis of 3661 patients from a single center.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ8-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	12627514	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	97	
	号	6	
	ページ	1488-98	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2003 Mar	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Azzola MF	Sydney Melanoma Unit
	その他著者 1	Shaw HM	同上
	その他著者 2	Thompson JF	同上
	その他著者 3	Soong SJ	アラバマ大学生物統計学教室
	その他著者 4	Scolyer RA	Royal Prince Alfred Hospital 解剖病理学教室
	その他著者 5	Watson GF	同上
	その他著者 6	Colman MH	Sydney Melanoma Unit
	その他著者 7	Zhang Y	アラバマ大学生物統計学教室
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	Tumor mitotic rate は独立予後因子となるかについて検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Sydney Melanoma Unit	
	対象者	1960 から 2002 までに Sydney Melanoma Unit で治療された黒色腫患者で選択基準に合致した 3661 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	Tumor mitotic rate、Tumor thickness、年齢、性別、部位、クラークレベル	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	死亡	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	0 mitoses/mm^2 の患者は 1 mitosis/mm^2 の患者に比べて有意に予後が優れていた。 Cox 回帰分析を行うと Tumor mitotic rate（0、1-4、5-10、11 mitoses/mm^2 以上）は Tumor thickness に次ぐ強力な予後規定因子となった。	
	結論	Tumor mitotic rate は黒色腫患者の生存に関する重要な独立予後因子である。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Thin cutaneous malignant melanomas (< or =1.5 mm): identification of risk factors indicative of progression.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ8-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	10091790	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	85	
	号	5	
	ページ	1067-76	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1999 Mar 1	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Massi D	Istituto di Anatomia e Istologia Patologica, Universita degli Studi di Firenze, Italia
	その他著者 1	Franchi A	同上
	その他著者 2	Borgognoni L	Divisione di Chirurgia Plastica e Ricostrutliva, Ospedale S.M Annunziata, Firenze, Italia.
	その他著者 3	Reali UM	同上
	その他著者 4	Santucci M	Istituto di Anatomia e Istologia Patologica, Universita degli Studi di Firenze, Italia
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	厚さ 1.5mm以下のメラノーマ患者における臨床的・病理組織学的に予後に影響を与える因子について調べる。
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究
	セッティング	Division of Plastic and Reconstructive surgery
	対象者	1975 から 1993 年まで、厚さ 1.5mm以下の浸潤性黒色腫患者 287 人
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）
	介入（要因曝露）	腫瘍の厚さ+リグレッションの厚さ（T＋R）、皮膚の厚さに対する腫瘍細胞の浸潤の厚さ（T/S）、皮膚の厚さに対する腫瘍の厚さ+リグレッションの厚さ（T+R/S）、年齢、性別、部位、組織型、クラークレベル、tumor thickness、リグレッション、浸潤するリンパ球、tumor growth phase

ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
1	死亡	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
10		1.主要 2.副次 3.その他（　）

一次研究の８項目	主な結果	287 人中 32 人で病気の進行が認められた。5 年生存率は 89.3%、10 年生存率は 84.6%であった。単変量解析では，男性（P = 0.01），acral-lentiginous type（P = 0.02），tumor thickness（P = 0.005），T+R（P = 0.001），T/S ratio > or = 50%（P = 0.03），(T+R)/S ratio > or = 50%（P = 0.006），vertical growth phase（P = 0.04），inflammatory response の欠如（P < 0.0001）が有意な予後因子であった． 多変量解析では，T+R（P = 0.009）と inflammatory response（P < 0.0001）だけが有意な予後因子であった．

	結論	厚さ 1.5mm以下のメラノーマ患者における進行に関する強い独立予後因子は T+R と inflammatory response である。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	The prognostic significance of ulceration of cutaneous melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ8-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	7388745	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	45	
	号	12	
	ページ	3012-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1980 Jun 15	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Balch CM	University of Alabama Medical Center
	その他著者 1	Wilkerson JA	同上
	その他著者 2	Murad TM	同上
	その他著者 3	Soong SJ	同上
	その他著者 4	Ingalls AL	同上
	その他著者 5	Maddox WA	同上
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の 8 項目	目的	原発部の潰瘍の深さ/広さと生存率の関係を調べる	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	University of Alabama Medical Center	
	対象者	過去 20 年間のデータベースに登録された 500 人以上の患者のうちデータが使用可能な 250 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	Tumor thickness、潰瘍の深さ、潰瘍の広さ	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	死亡	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	潰瘍が存在する割合は tumor thickness0.76mm 未満の症例で12.5%、tumor thickness 4mm超の症例で 72.5%であった。潰瘍が存在すると 5 年生存率は stage Ⅰ の患者で 80%から 55%に減少し、stage Ⅱの患者で 53%から 12%に減少する（$p<0.001$）。 潰瘍の深さの中央値は 0.08mm であった。潰瘍の深さが 0.2mm 以上の症例はもともとが tumor thickness の厚い症例なので、潰瘍の深さを tumor thickness に加えて stage をマッチさせた症例と比較検討しても生存率に影響が認められなかった。 潰瘍の広さについては、潰瘍のない場合 5 年生存率が 74%、0.1mmから 6mmまでの場合 5 年生存率が 44%、6.0mm以上の場合 5 年生存率が 5%であり、有意な相関が認められた。	
	結論	潰瘍は生存率に重要な影響を与えるので、臨床試験の基準に採用したり悪性黒色腫治療の結果解析時に考慮されるべきである。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic value of tumor infiltrating lymphocytes in the vertical growth phase of primary cutaneous melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ8-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	8608507	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	77	
	号	7	
	ページ	1303-10	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1996 Apr 1	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Clemente CG	Istituto Nazionale per Io Studio e la Cura dei Tumori
	その他著者 1	Mihm MC Jr	Albany Medical Collage
	その他著者 2	Bufalino R	Istituto Nazionale per Io Studio e la Cura dei Tumori
	その他著者 3	Zurrida S	同上
	その他著者 4	Collini P	同上
	その他著者 5	Cascinelli N	同上
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の 8 項目	目的	垂直増殖期における tumor infiltrating lymphocytes の予後に影響する程度を評価する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	WHO melanoma study group	
	対象者	1967 から 1975 までの WHO melanoma study group に集められた 777 例のうち基準を満たした旧 AJCC stage Ⅰ または Ⅱ の 285 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	細胞分裂数、tumor infiltrating lymphocytes、Tumor Thickness、regression、年齢、性別、原発部位	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	死亡	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	5 年生存率　10 年生存率 Brisk tumor infiltrating lymphocytes　77%　55% Nonbrisk tumor infiltrating lymphocytes　53%　45% No tumor infiltrating lymphocytes　37%　22% 多変量解析では Tumor Thickness と tumor infiltrating lymphocytes が有意な独立予後規定因子であった。	
	結論	垂直増殖期における tumor infiltrating lymphocytes はとても強力な予後因子となる。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Predicting five-year outcome for patients with cutaneous melanoma in a population-based study.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	MMCQ8-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ IV ）	
	Pubmed ID	8697387	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	78	
	号	3	
	ページ	427-32	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.衛学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1996 Aug 1	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Barnhill RL	Brigham and Women's Hospital
	その他著者 1	Fine JA	Harvard Medical School
	その他著者 2	Roush GC	Yale University School 'of Medicine
	その他著者 3	Berwick M	Memorial-Sloan Kettering Cancer Center
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の８項目	目的	悪性黒色腫における人口ベースの予後因子を解析する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	コネチカット州	
	対象者	1987年1月から1989年5月までの548人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	組織型、クラークレベル、顕微鏡的衛星病巣、リグレッション、Tumor thickness、潰瘍、脈管浸襲、細胞分裂数、tumor infiltrating lymphocytes、growth phase、年齢、性別、原発部位、solar elastosis、黒子、リンパ球の反応、深部の色素	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5年生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	単変量解析では組織型、クラークレベル、顕微鏡的衛星病巣、リグレッション、Tumor thickness、潰瘍、脈管浸襲、細胞分裂数、growth phase、solar elastosis が予後に影響した。 多変量解析では Tumor thickness と細胞分裂数のみが予後に影響した。	
	結論	Tumor thickness が最も強い予後因子であった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ）	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Use of chest radiography in the initial evaluation of patients with localized melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ9-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	9606326	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	134	
	号	5	
	ページ	569-72	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1998 May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Terhune MH	Department of Dermatology, Otolaryngology and Surgery, University of Michigan Medical Center
	その他著者 1	Swanson N	同上
	その他著者 2	Johnson TM	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の 8 項目	目的	無症候で転移の無い黒色腫患者おける初回ステージングとしての胸部 X-P の有用性の検討	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	地域のメラノーマセンター（ミシガン大学メラノーマデータベース）	
	対象者	1982年から1993年までデータベースに登録された登録時に転移の無い 1032 人。そのうち 876 人に胸部 X-P 撮影が行われた。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	胸部 X-P 撮影	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	肺転移	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	ステージングに際して胸部 X-P を撮影した 876 人のうち、胸部 X-P にて疑わしい像が得られたのが 130 人（15%）であったが、その中で真の肺転移であったのは 1 人。 1032 人中フォローアップで肺転移をきたしたのが 30 例で、ステージング時の胸部 X-P に異常がなかったのが 17 例、疑陽性であったのが 5 例、ステージングに際して胸部 X-P を撮っていなかったのが 8 例であった。	
	結論	ステージングに際して撮影する胸部 X-P で肺転移が見つかる確率 0.1%であり、厚さ 4.0mm以下の患者において胸部 X-P をルーチンに撮影することを推奨することはできない。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Ultrasonography or palpation for detection of melanoma nodal invasion: a meta-analysis	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ9-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ. 非ランダム化比較試験による Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	15522655	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	5	
	号	11	
	ページ	673-80	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2004 Nov	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bafounta ML	Hopital Ambroise Pare
	その他著者 1	Beauchet A	同上
	その他著者 2	Chagnon S	同上
	その他著者 3	Saiag P	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	メラノーマ患者のリンパ節転移を検出する目的で行う触診と超音波検査の有用性を評価する
	データソース	2003 年 12 月 1 日までの MEDLINE (1996 から), EMBASE (1989 から), PASCAL-BIOMED (1987 から), Cochrane database, BIUM（1985 から）。MEDLINE の検索には ultrasonography, sonography, ultrasound, echography のキーワードを使用した。
	研究の選択	当初 94 報の論文を検索しアブストラクトから 28 報に絞った。 そのうち 12 報をメタアナリシスに使用した。
	データ抽出	不明
	主な結果	超音波検査は触診に比べ有意に検出力が高かった。 超音波検査(odds ratio 1755; 95% CI 726-4238) 触診(21 [4-111]; p=0.0001) 超音波検査と触診の陽性尤度比は 41.9（29-75）、4.55（2-18）、 超音波検査と触診の陰性尤度比は 0.024（0.01-0.03）、0.22（0.06-0.31）
	結論	触診に比べ正確であるので経過観察に超音波検査を行うべきである。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ 1 ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Baseline staging in cutaneous malignant melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ9-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ ⅠⅤ ）	
	Pubmed ID	15099363	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	150	
	号	4	
	ページ	677-86	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2004 Apr	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Hafner J	University Hospital of Zurich
	その他著者 1	Schmid MH	同上
	その他著者 2	Kempf W	同上
	その他著者 3	Burg G	同上
	その他著者 4	Kunzi W	同上
	その他著者 5	Meuli-Simmen C	同上
	その他著者 6	Neff P	同上
	その他著者 7	Meyer V	同上
	その他著者 8	Mihic D	同上
	その他著者 9	Garzoli E	同上
	その他著者 10	Jungius KP	同上
一次研究の 8 項目	目的	転移を早期発見するため、baseline staging の感度・特異度を評価する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	チューリッヒ大学皮膚科	

	対象者	1999 年 8 月から 2002 年 3 月までに 1.0mm以上の新規に診断された患者。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	診察、超音波検査、胸部 X-P、PET、センチネルリンパ節生検	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	リンパ節転移または遠隔転移	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	リンパ節転移について%　感度　特異度　陽性的中度　陰性的中度 診察　12(6-28)100(95-100)　25(5-57) 74(63-8) PET（所属リンパ節）　8(1-25)　100(95-100)　100(16-100) 76(66-84) 超音波（所属リンパ節）8(1-25)　88(78-94)　18(2-52)　73(63-82) 超音波と PET　12(6-28)　88(78-94)　25(5-57) 74(63-83) 遠隔転移について%　感度　特異度　陽性的中度　陰性的中度 胸部 X-P　…　96（90-99）0(0-60) 100(96-100) 腹部超音　…　97（91-99）0(0-71) 100(96-100) 全 PET　…　98（93-100）0(0-84) 100(96-100) 上記の複合　…　91（84-96）0(0-34) 100(96-100)	
	結論	触診と所属リンパ節の超音波検査を組み合わせると macroscopic リンパ節転移の大部分を検出することができる。 baseline staging で遠隔転移を検出するのは難しい。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Routine imaging of asymptomatic melanoma patients with metastasis to sentinel lymph nodes rarely identifies systemic disease	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	MMCQ9-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ、システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ、1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ、非ランダム化比較試験 Ⅳ、分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ、記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ、患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	15302691	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	139	
	号	8	
	ページ	831-6	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2004 Aug	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Miranda EP	カリフォルニア大学外科
	その他著者 1	Gertner M	同上
	その他著者 2	Wall J	同上
	その他著者 3	Grace E	同上
	その他著者 4	Kashani-Sabet M	カリフォルニア大学皮膚科
	その他著者 5	Allen R	カリフォルニア大学外科
	その他著者 6	Leong SP	同上
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の 8 項目	目的	センチネルリンパ節生検陽性患者に行う画像検査の有用性を評価する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	カリフォルニア大学	
	対象者	1994 年 4 月から 2003 年 2 月までにセンチネルリンパ節生検を施行された患者のうち少なくとも 1 個のリンパ節に転移が見られた 185 人。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	胸部 X-P、胸部・腹部骨盤 CT、頭部 CT または MRI	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	転移	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	総画像検査の 0.5%で転移像が陽性、86%で陰性、14%が評価困難であった。評価困難な場合は更なる画像検査や侵襲的検査にて陰性を確認した。 スクリーニング検査で同定された割合は 胸部 X-P 0% 胸部 CT 0.7%（142 人中 1 人） 腹部骨盤 CT 0.7%（146 人中 1 人） 頭部 CT または MRI 0%（112 人中 0 人） 結果的に 1 人の患者で全身転移像が確認されたが、センチネルリンパ節生検 2 ヵ月後の胸部、腹部・骨盤 CT 撮影時点で呼吸苦の臨床症状が出現していた。	
	結論	センチネルリンパ節生検陽性であっても無症候性患者であれば、生検後にルーチンに画像検査を行うことは勧められない。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ ⅠⅤ ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Computed tomography in evaluation of patients with stage III melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ9-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ、システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ ⅠⅤ ）	
	Pubmed ID	9142387	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	4	
	号	3	
	ページ	252-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1997 Apr-May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Kuvshinoff BW	Department of Surgery, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center
	その他著者 1	Kurtz C	同上
	その他著者 2	Coit DG	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の 8 項目	目的	所属リンパ節転移術後患者における遠隔転移検索のために行う CT 検査の有用性を評価する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	

	セッティング	Memorial Sloan-Kettering Cancer Center	
	対象者	1988 から 1994 までの 1983AJCCstageⅢの患者 347 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	CT scan	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	転移	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	788回の撮影で33の転移が見つかった(4.2%)。一方偽陽性は66/788で 8.4%であった。 頚部リンパ節腫脹のある患者において胸部 CT で転移が見つかったのは 7/35、20%であった。 ソケイリンパ節腫脹のある患者において骨盤 CT で転移が見つかったのは 7/94、7.4%であった。	
	結論	1983AJCCstageⅢの患者にルーチンで CT を行っても転移病変が見つかることはまれである。自覚症状の無い患者への頭部 CT、ソケイリンパ節腫脹患者への胸部 CT、頚部または腋かリンパ節腫脹患者への骨盤 CT は適応とならない。 頚部リンパ節腫脹患者への胸部 CT、ソケイリンパ節腫脹患者へ骨盤 CT を選択的に行うことは有用かもしれない。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Positron emission tomography is not useful in detecting metastasis in the sentinel lymph node in patients with primary malignant melanoma stage I and II.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ9-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	15057045	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Melanoma Res.	
	雑誌 ID		
	巻	14	
	号	2	
	ページ	141-5	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2004 Apr	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Fink AM	Wilhelminenspital
	その他著者 1	Holle-Robatsch S	同上
	その他著者 2	Herzog N	同上
	その他著者 3	Mirzaei S	同上
	その他著者 4	Rappersberger K	Rudolfsstiftung
	その他著者 5	Lilgenau N	同上
	その他著者 6	Jurecka W	Wilhelminenspital
	その他著者 7	Steiner A	同上
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	所属リンパ節転移を検出するための PET の有用性を検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	Wilhelminenspital	
	対象者	1998 年から 2002 年に AJCCstage Ⅰ または Ⅱ の患者 48 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	FDG-PET	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	センチネルリンパ節転移陽性	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	48 人中 8 人（16.7%）がセンチネルリンパ節転移陽性であった。8 人中 FDG-PET で陽性であったのは 1 人だけだった（感度 13%）。すなわち 48 人中 FDG-PET で偽陰性が 7 人であり、偽陽性はなかった。	
	結論	FDG-PET は AJCC stage Ⅰ または Ⅱ の患者において、無症候性で超音波検査で発見できないリンパ節転移を発見するための適切なスクリーニング検査ということはできない。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Futility of fluorodeoxyglucose F 18 positron emission tomography in initial evaluation of patients with T2 to T4 melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	MMCQ9-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ ⅠⅤ ）	
	Pubmed ID	16549694	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	141	
	号	3	
	ページ	284-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2006 Mar	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Clark PB	Wake Forest University Health Sciences
	その他著者 1	Soo V	同上
	その他著者 2	Kraas J	同上
	その他著者 3	Shen P	同上
	その他著者 4	Levine EA	同上
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	T2 から T4 の患者における全身 PET の有用性を評価する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	Wake Forest 大学	
	対象者	1998 年 12 月から 2004 年 7 月までにセンチネルリンパ節生検をうけた 178 人のうち PET を受けた 64 人。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	全身 PET	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	センチネルリンパ節転移有り	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	64 人中遠隔転移を発見された者はいなかった。64 人中 60 人に異常なく 2 人は偽陽性で、2 人にリンパ節転移が見つかった。 すなわち、センチネルリンパ節生検陽性の 19 人中、PET 所見でも転移が見られたのは 2 人（11%）であった。 PET の結果によって治療が変更となった患者はいなかった。	
	結論	厚さ 1mm以上で転移の無い患者において、潜在性の転移病巣を探す目的で PET を行うことの有用性は無い。術前検査から PET を削除することが推奨される。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ ⅠⅤ ）	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Impact of [18F]fluorodeoxyglucose positron emission tomography on surgical management of melanoma patients.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	MMCQ9-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ ⅠⅤ ）	
	Pubmed ID	16323165	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	93	
	号	2	
	ページ	243-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2006 Feb	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bastiaannet E	University Medical Centre Groningen
	その他著者 1	Oyen WJ	同上
	その他著者 2	Meijer S	Free University Medical Centre　Amsterdam
	その他著者 3	Hoekstra OS	同上
	その他著者 4	Wobbes T	Radbound University Nijmegen Medical Centre
	その他著者 5	Jager PL	University Medical Centre Groningen
	その他著者 6	Hoekstra HJ	同上
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の８項目	目的	FDG-PET の治療における有用性を評価する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	

	セッティング	3 つの University Medical Centre	
	対象者	1992 年から 2004 年までのあいだに FDG-PET をおこなった 257 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	FDG-PET	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	治療の変更	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	257 人中 56 人（21.8%）は FDG-PET の結果によって Stage が上がった。この 56 人のうち 30 人で治療が変更となった。 257 人中 44 人は治療が変更となった。44 人中真陽性が 33 人、偽陽性が 3 人、真陰性が 3 人、偽陰性が 5 人であった。外科治療から全身療法に変更となったケースが多かった。6 人が外科両方から無治療（経過観察）となり、5 人が無治療（経過観察）から全身療法へ変更となった。	
	結論	FDG-PET は特に stageⅢの患者における転移発見に有用な検査で、外科療法か全身療法かの選択に有用である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ ⅠⅤ ）	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Diagnostic performance of whole body dual modality 18F-FDG PET/CT imaging for N- and M-staging of malignant melanoma: experience with 250 consecutive patients.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ9-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	16505438	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Clin Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	24	
	号	7	
	ページ	1178-87	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2006 Mar	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Reinhardt MJ	University Hospital Bonn
	その他著者 1	Joe AY	同上
	その他著者 2	Jaeger U	同上
	その他著者 3	Huber A	同上
	その他著者 4	Matthies A	同上
	その他著者 5	Bucerius J	同上
	その他著者 6	Roedel R	同上
	その他著者 7	Strunk H	同上
	その他著者 8	Bieber T	同上
	その他著者 9	Biersack HJ	同上
	その他著者 10	Tuting T	同上
一次研究の８項目	目的	PET/CT の N-、 M-staging に対する有用性を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	

	セッティング	University Hospital Bonn	
	対象者	2002 年 11 月から 2004 年 7 月までにさまざまな目的で PET/CT をうけたさまざまなステージの黒色腫患者 250 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	PET、CT、PET/CT	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	転移	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	転移を正確に検出する能力は PET/CT98.7%、PET88.8%、CT69.7% であった。画像検査のみで正確に N-,M-staging できたのは PET/CT97.2%（95%信頼区間 95.2%－99.4%）、PET92.8%（89.6%－96.0%）、CT78.8%（73.7%－83.9%）。 PET/CT の結果によって治療が変わった症例は 121 人（48.4%）であった。	
	結論	PET/CT の診断能力の高さから、遠隔転移の除外または診断目的での使用が示唆される。	
	備考		
	レビューワー氏名	古賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）	

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Excision margins in the treatment of primary cutaneous melanoma: a systematic review of randomized controlled trials comparing narrow vs wide excision	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ10-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	12361412	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Archives of Surgery.	
	雑誌 ID		
	巻	137	
	号	10	
	ページ	1101-05	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lens M B	オックスフォード大学 Centre for Evidence-Based Medicine
	その他著者 1	Dawes M	同上
	その他著者 2	Goodacre T	同上
	その他著者 3	Bishop J A	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	悪性黒色腫の治療において狭い外科的切除マージンと広い外科的切除マージンの有効性を比較した
	データソース	MEDLINE (from 1966 to March 2001), EMBASE (from 1974 to March 2001) Cochrane Controlled Trials Register (Issue 4, 2000)
	研究の選択	Cochrane Collaboratioの選択基準を用いた
	データ抽出	randomisation, number of participants, disease characteristics, intervention characteristics, duration of follow-up, rate of follow-up, outcomesを基に抽出した
	主な結果	狭い外科的切除マージン（1または2ｃｍ）と広い外科的切除マージン（3または4または5ｃｍ）の有効性の差は見出されなかった。 総生存率（3件の試験。 1,979 例）. 5年生存率に関して2群間で有意差は認められなかった（統合オッズ比 0.79, 95% CI: 0.61-1.04, P=0.09; 不均質性に関するカイ２乗検定 2.15, P=0.34）. 無病生存率（3件の試験。 1,854例）. 無病5年生存率に関して2群間で有意差は認められなかった1(統合オッズ比 0.89, 95% CI: 0.69-1.13, P=0.3; 不均質性に関するカイ２乗検定 2.32, P=0.31）. 局所再発と転移. 3件の臨床試験全てにおいて、狭い外科的切除マージンと広い外科的切除マージンの局所再発に関する有意な違いは見出されなかった。(3件の試験, n=2,071). 3件の臨床試験全てにおいて、狭い外科的切除マージンと広い外科的切除マージンのin-transit転移、所属リンパ節転移、遠隔転移に関する有意差は見出されなかった.
	結論	狭い外科的切除マージンと広い外科的切除マージンの間に統計学的有意差が認められた研究は1件も無かった。このメタアナリシスから、厚さ2mm未満のメラノーマにおいて2ｃｍを超える広い外科的切除マージンは生存率の改善、再発転移の減少にはつながらないということがいえる。厚さ2mmを超えるメラノーマ（特に[illegible]mm以上の症例）において理想的な切除マージンを評価するにはエビデンスが不足している。
	備考	Database of Abstracts of Reviews of Effects 2006, Issue 2 に収載　DARE-20022332
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅰ ） Database of Abstracts of Reviews of Effects に収載されており、質の高い研究である。